公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アソベル袋井駅前			
○保護者評価実施期間	令和８年　７月　１日	～	令和８年　８月　１日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	28	（回答者数）	21
○従業者評価実施期間	令和8年年　７月　１日	～	令和８年　８月　１日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4	（回答者数）	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年年　8月　２０日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童を取り巻く環境や機関（学校・家庭・相談員）と連携を図りながら切れ目のない支援を行うことが出来ています。 児童の個々の様子を連続性を持って観察し、支援や療育に繋げています。 今後は児童の課題に着目し、社会生活を送る上で少しでも生きやすくなるような支援を心掛けていきます。	個人情報保護や人権の観点に留意しつつ、児童んオ課題や成長をその児童に関わる方たち（学校担任・相談員・他放デイ）と共有し、学校などで統一化した支援を行うことが出来るように心掛けていきます。	児童が社会生活を送る上で困り感や疎外感を感じた際にサポートが出来るような支援体制を保護者や学校などと連携しながら構築していきます。
2	SSTや体幹トレーニング、日常生活を送る上での生活スキルを高める為のレクリエーションを実施し、児童個々の目標を定めて計画を立てながら支援をしていきます。	SSTを通して相手の気持ちと自分の気持ちを認知する事、それを正しく伝え受け止める事、違いを認め合う事の大切さを学んでいます。 体幹トレーニングでは身体の正しい使い方を楽しく会得できるように支援しています。	児童が達成感を味わい、自己肯定感を高めることが出来るように楽しく取り組めるトレーニングを今後も追加していきます。
3	買い物体験や交通公共機関の利用など様々な地域資源を活用する経験を増やし、社会生活を送る上で求められるスキルを養えるプログラムを策定しています。	室内での買い物体験で学んだ後、実際の店舗で計算しながら買い物をしています。金銭感覚を養うと共にお金の大切さについて学んでいます。実際に切符を買って電車に乗り、公共機関でのマナーやルールを学んでいます。	引き続き生活スキルの向上に資するレクリエーションや学びの機会を様々な社会資源を活用しながら支援を行います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在、職員室としての個室はありますが、気持ちが崩れてしまった際に安全を確保し、落ち着ける児童専用の個室がありません。崩れた際には1対1で職員室にてクールダウンをしています。	室内の環境レイアウトに改良の余地があると考えます。	室内環境の変更等、児童にとって落ち着ける空間を提供できるように検討をします。
2	児童の就労に繋がるような支援体制が整っていません。	小学校低学年の児童が利用児童の8割をしまえ入る為、中高生の利用がありません。	まずは小学年高学年を対象に施設内でできる就労体験レクリエーションを引き続き実施します。
3			